

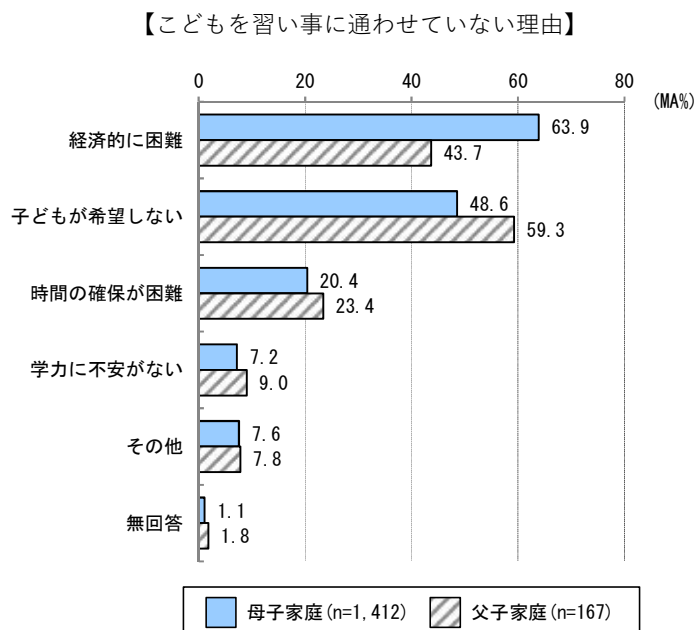
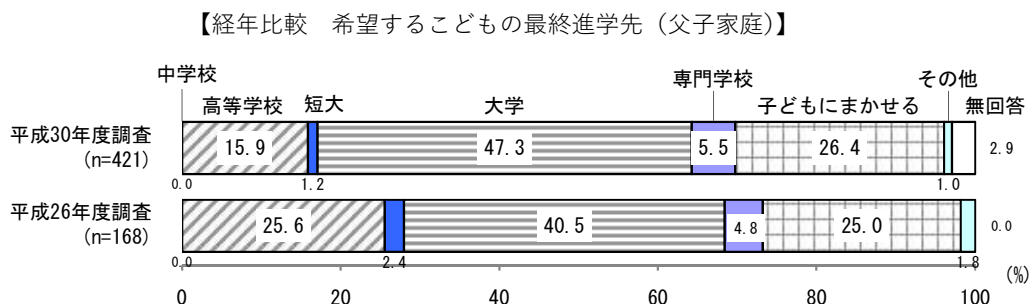
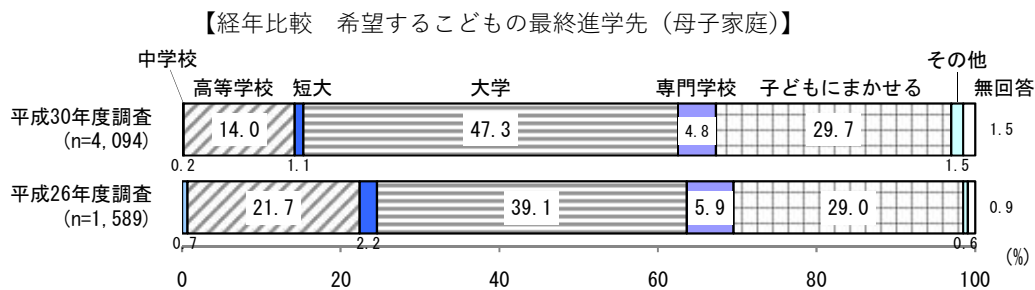
ウ 希望するこどもの最終進学先とこどもを習い事に通わせていない理由

母子家庭、父子家庭とも「大学」が最も多く、次いで「こどもにまかせる」、「高等学校」となっています。

平成26年度調査と比較すると、「大学」が増加しており、「高等学校」が減少しています。

一方、こどもを習い事に通わせていない理由について、母子家庭では「経済的に困難」が63.9%で最も多く、父子家庭（43.7%）に比べて20.2ポイント高い割合になっています。

父子家庭では「こどもが希望しない」が59.3%で最も多くなっています。



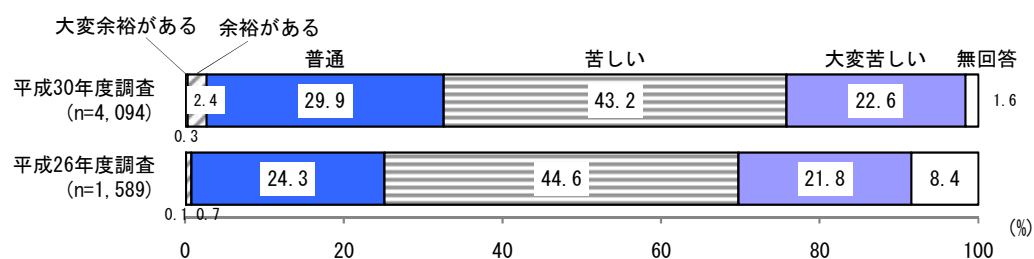
エ 現在の生活の状況

母子家庭では「苦しい」が43.2%で最も多く、「大変苦しい」と合わせると65.8%となっています。

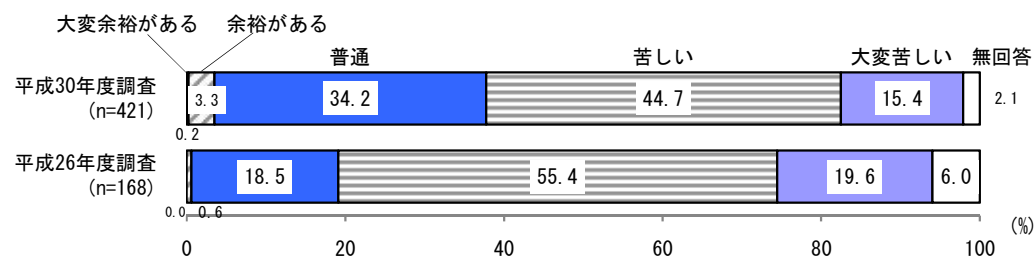
父子家庭では、「苦しい」が44.7%で最も多く、「大変苦しい」と合わせると60.1%となっています。

母子家庭では、「ひとり親家庭になったときに困ったこと」及び「現在困っていること」について、「経済的に困った」という回答が最多となっており、経済的支援はひとり親家庭の生活のために大変重要な支援です。

【経年比較 現在の生活の状況（母子家庭）】



【経年比較 現在の生活の状況（父子家庭）】



(5) サポート体制について

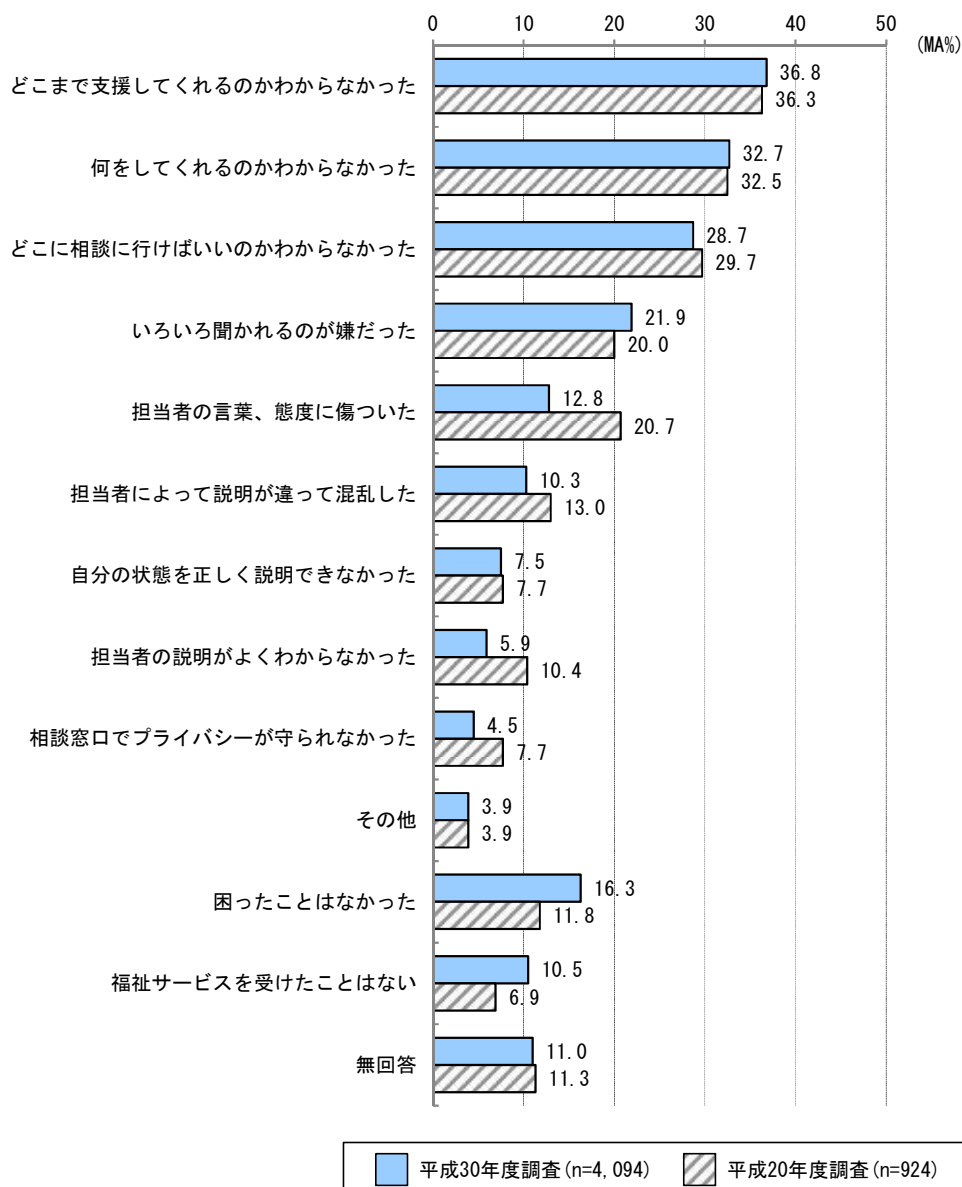
ア 福祉サービスを受けるときに困ったこと

母子家庭では、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」や「何をしてくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえます。

また、福祉サービスを受けるときに不満だった内容として、「いろいろ聞かれるのが嫌だった」が21.9%と多くなっています。

一方、平成20年度調査と比較すると、「担当者の言葉、態度に傷ついた」は7.9ポイント、「担当者の説明がよくわからなかった」は4.5ポイント減少しています。

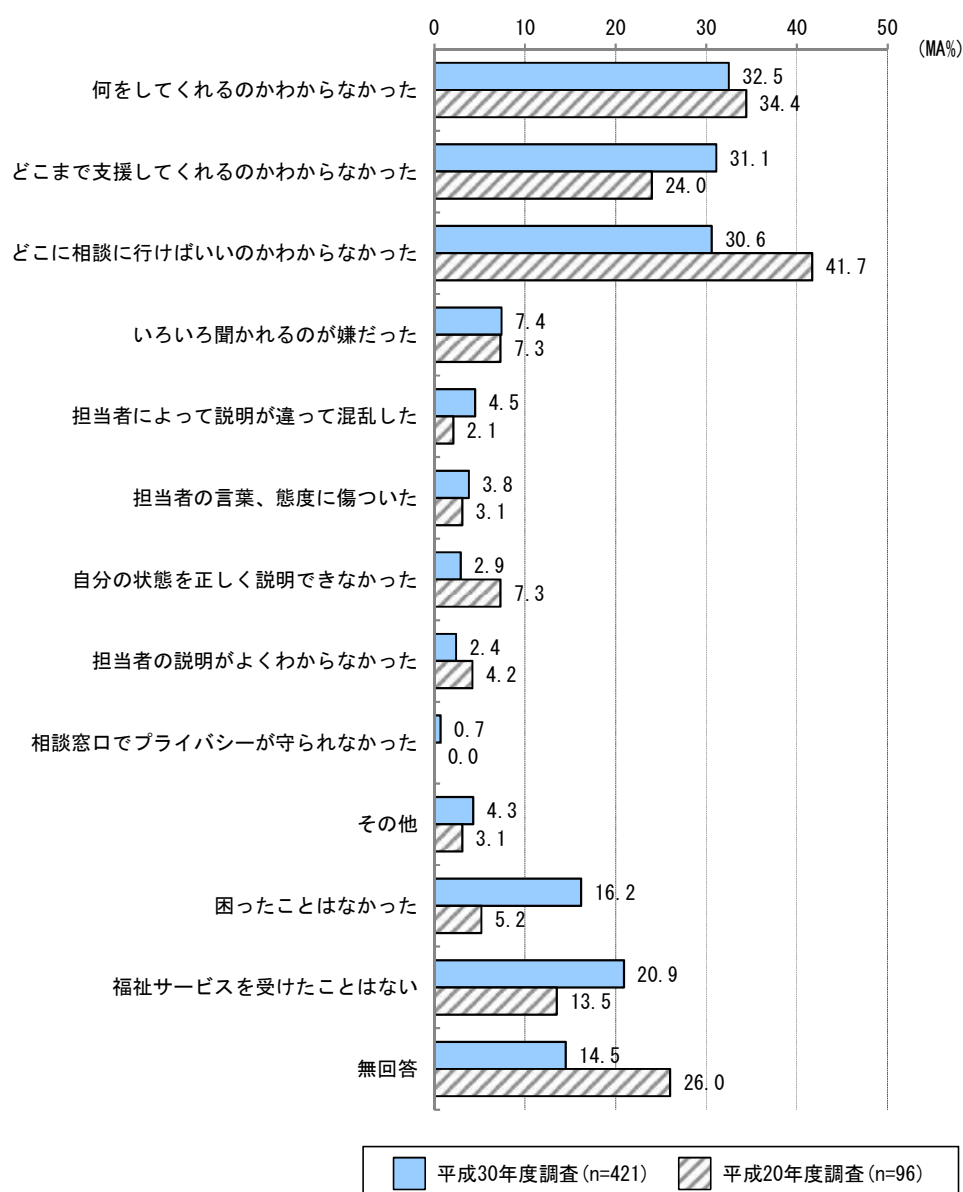
【経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと（母子家庭）】



父子家庭でも「何をしてくれるのかわからなかった」や「どこまで支援してくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえます。これに続いて「福祉サービスを受けたことはない」が20.9%と多くなっています。

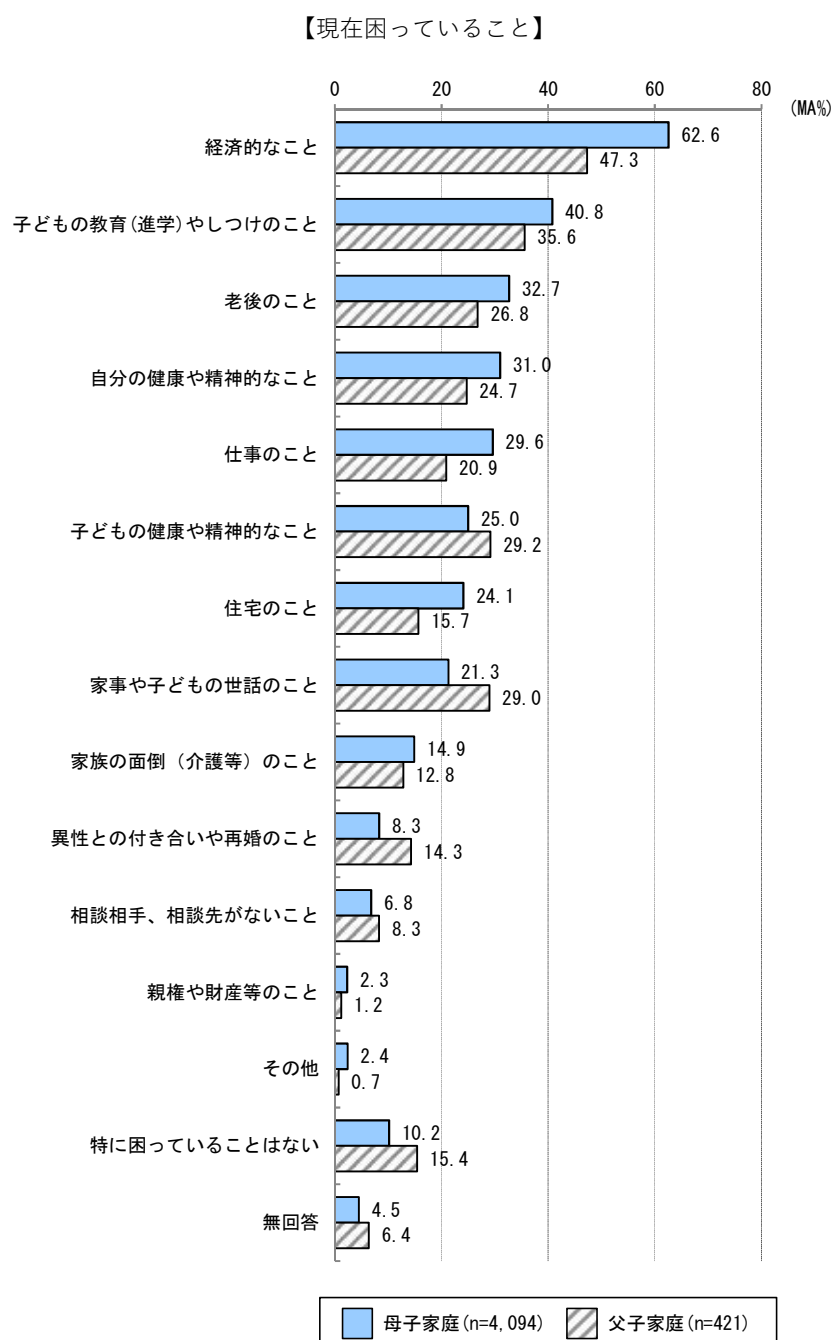
平成20年度調査と比較すると、「困ったことはなかった」が11.0ポイント、「福祉サービスを受けたことはない」が7.4ポイント、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」が7.1ポイント増加しており、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」は11.1ポイント減少しています。

【経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと（父子家庭）】



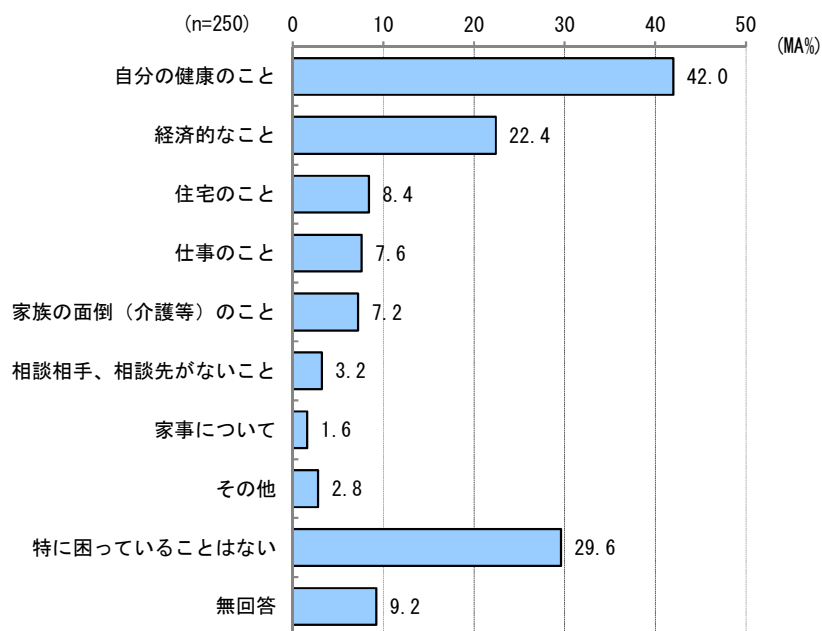
イ 現在困っていること

母子家庭・父子家庭とも「経済的なこと」が最も多く、母子家庭は 62.6%、父子家庭は 47.3%で、母子家庭のほうが 15.3 ポイント高い割合になっています。これに次いで「こどもの教育（進学）やしつけのこと」が母子家庭で 40.8%、父子家庭で 35.6%となっており、続けて母子家庭は「老後のこと」（32.7%）、「自分の健康や精神的なこと」（31.0%）が多く、父子家庭は「こどもの健康や精神的なこと」（29.2%）、「家事やこどもの世話のこと」（29.0%）が多くなっています。



寡婦について、現在困っていることについて、「自分の健康のこと」が42.0%で最も多く、次いで「経済的なこと」が22.4%、「住宅のこと」が8.4%となっています。

【図 5-2 現在困っていること（寡婦）】



ウ 困ったときの相談先

母子家庭・父子家庭とも「親族」が最も多く、母子家庭は68.2%、父子家庭は63.2%となっています。これに次いで「友人、知人」が、母子家庭は66.1%、父子家庭は41.1%となっています。

困ったときに相談する相手として、「親族」「友人・知人」の割合が高いですが、「公的機関」の割合が低く、「相手がいない」は母子家庭に比べ父子家庭は高くなっています。

ひとり親家庭等が困ったときに気軽に相談できる場として認知されるよう、各種制度・相談窓口の広報周知を引き続き行うことが必要です。

寡婦については、「親族」が71.6%で最も多く、次いで「友人、知人」が31.2%、「公的機関」が12.8%となっています。

